ポットハボタンのブランド力強化に向けた「複数本仕立て」の栽培方法

ポットハボタンの産地では付加価値を備えたブランド商品の開発が求められており、流通では新たな形態の複数本仕立ての需要が高まっている。そこで3号ポットに複数本を仕立てる栽培方法について検討した。その結果、播種適期は8月下旬から9月上旬、生育及び着色の揃いがよいのは移植栽培で、仕立て本数は3本が適した。

内　容

ポットハボタンは本県の花壇苗で最も多く生産されている。近年、一般的な商品は販売価格が低迷しており、付加価値を備え、より高価格を狙えるブランド商品の開発が求められている。新たな商品形態として１ポットに複数本仕立てる商品に需要が高まっているため、その栽培方法について検討した。

８月14日から９月14日まで10日毎に播種したところ、10月下旬頃から着色が始まり、出荷適期は11月下旬から12月上旬頃になった。８月14日播種では下葉の枯れが多く着色がやや不良となり、９月14日播種では葉数が少なく着色開始時期が遅れたことから、播種適期は８月下旬から９月上旬と考えられた。

288穴セルトレイに播種し、約４週間後にポットに鉢上げする方法（移植区）とポットに直播する方法（直播区）で栽培した。発芽率は両区とも概ね95%以上で差がなかったが、直播区の７本仕立てでは、播種数が多いため、欠株が発生したポットの割合は約10%になった。移植区に比べ、直播区は鉢上げの手間が省けたが、生育が不揃いで、着色が不良となる傾向が認められた。

移植により３号ポットに３、５、７本の仕立てを行った。３本仕立ては生育及び着色の揃いがよかったが、５本、７本と仕立て本数が多くなるほど、揃いが悪くなった。

供試した「雪華美」（白色）、「ウインターチェリー」（ピンク色）、「白はと」（白色）及び「紅はと」（ピンク色）の４品種（全て丸葉）の中では、「ウインターチェリー」が着色及び生育の揃いがよく整った草姿になった。

今後の方針

省力的な直播栽培において、草姿を整えることが課題であり、わい化技術等の確立をすすめる。また、単色以外に２、３色を組み合わせた商品を開発する。

水谷　祐一郎（農産園芸部）
（問い合わせ先　電話：0790－47－2422）

ハボタンの複数本仕立て
上段：「ウィンターチェリー」
　　８月24日播種（移植）

下段：「白はと」
　　９月４日播種（直播）

左から３本、５本、７本仕立て